

2) 日本の先輩世界遺産

『自然遺産』

1) 屋久島 (1993年12月)

鹿児島県南部に位置する「屋久島(やくしま)」樹齢1000年を超える屋久杉が美しい自然景観を生み出し、亜熱帯から亜寒帯までの植物が平地から山頂へと連続的に分布する植生の垂直分布が見られます。

2) 白神山地 (1993年12月)

青森県南西部から秋田県北西部にまたがる130,000haに及ぶ広大な山地帯の総称です。このうち原生的なブナ林で占められている区域16,971haが登録されています。

3) 知床 (2005年7月)

「知床」はアイヌ語で「Sir-etoko(地の・突出部)」人間を寄せつけない切り立った断崖絶壁を持つ半島部がオホーツク海に突き出し、世界的にも貴重な原始の自然をそのまま残しています。流水が育む豊かな海洋生態系と原始性の高い陸息生態系の相互関係に特徴があります。

4) 小笠原諸島 (2011年6月)

東京の南方海上約1000kmの太平洋上に散在する30余の島々からなる「小笠原諸島(おがさわらしょうとう)」これまで大陸と繋がったことのない海洋島のため、島にたどり着いた生物が独自に進化を遂げ特異な生態系を有しています。

『文化遺産』

5) 法隆寺地域の仏教建造物 (1993年12月)

構成資産は、法隆寺に属する47棟の建造物と法起寺に属する1棟の建造物。登録地域の面積は、構成資産15ヘクタール、それを保護する緩衝地帯571ヘクタール。法隆寺地域の建造物は、1400年にもおよぶ歴史をそのままの姿で今に伝えてくれています。

6) 姫路城 (1993年12月)

安土桃山時代から江戸時代初期にかけての建築技術の粋を極めた傑作といわれ、軍事的・芸術的にもっとも完成された文化財として評価されています。

7) 古都京都の文化財 (1994年12月)

平安時代から江戸時代までの各時代を代表する建築様式、庭園様式、文化的背景を今に伝えていること、その後の日本の建築、造園、都市計画の発展に大きな影響を及ぼしたことが評価されています。

8) 白川郷・五箇山の合掌造り集落 (1995年12月)

白川郷と五箇山の合掌造り家屋は、最も発達した合理的な民家形式の1つであり、日本の木造文化を代表するものです。また、特色のある合掌造り家屋群を中心とする農村景観は世界的に価値のある貴重な文化遺産と評価されています。

9) 原爆ドーム (1996年12月)

構成資産は、広島平和記念碑(原爆ドーム)。登録地域の面積は、構成資産0.4ヘクタール、それを

保護する緩衝地帯43ヘクタール。核兵器による惨状をそのままの形で今に伝える世界で唯一の建造物であり、核兵器廃絶と恒久平和の大切さを訴える他に例をみない平和記念碑である。

10) 厳島神社 (1996年12月)

厳島神社の建造物群と背後の弥山を含む森林区域。厳島神社の創建は推古元年(593年)、その後、仁安3年(1168年)、平清盛によって寝殿造り様式(平安時代貴族の邸宅建築様式)を取り入れ現存の規模に造営されました。

11) 古都奈良の文化財 (1998年12月)

構成資産は次の8資産。東大寺、春日大社、春日山原始林、興福寺、元興寺、薬師寺、唐招提寺、平城宮跡。古都奈良は同和3年(710年)、唐の長安を規範に日本の首都・平安京として建設されました。8物件全体で奈良時代の都市の様子を知ることができる貴重な史料として評価されています。

12) 日光の社寺 (1999年12月)

日光山内にある二荒山神社・東照宮・輪王寺の103棟の「建造物群」(国宝9棟、重要文化財94棟)と、これらを取りまく「遺跡(文化的景観)」が評価されている。東照宮は、元和3(1617)年に創建された徳川家康公の霊廟です。伝統的な神社建築様式・権現造で建造され、当時最高水準の装飾が施されていることでも有名です。

13) 琉球王国のグスク及び関連遺産群 (2000年12月)

沖縄にある多くのグスク(城)及び遺跡の中から5つのグスク(首里城、中城城跡、座喜味城跡、勝連城跡、今帰仁城跡)と、その関連遺産の4つの遺物(園比屋武御嶽石門、玉陵、識名園、斎場御嶽)が貴重な文化遺産と評価されています。

14) 紀伊山地の霊場と参詣道 (2004年7月)

吉野山を含む「紀伊山地の霊場と参詣道」は、紀伊半島の自然とそこに根付いた「霊場」や「参詣道」とそれを取り囲む「文化的景観」が中心となっていることが特色です。

15) 石見銀山遺跡とその文化的景観 (2007年6月)

石見銀山は東アジアの東辺にあたる日本列島の西部にあり、大陸に面した日本海岸近くに位置します。1526年に九州博多の豪商神屋寿禎(かみやじゅてい)によって発見されて以来1923年の休山まで約400年にわたって採掘されてきた日本を代表する鉱山遺跡です。

16) 平泉-仏国土(浄土)を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群 (2011年6月) 平泉は、11世紀?12世紀の日本列島北部領域において、仏教に基づく理想世界の実現を目指して造営された政治・行政上の拠点でした。このかつての巨大な政治・行政上の拠点に存在し、浄土庭園、12世紀から残存する顕著な仏堂、神聖なる金鶏山との関係を伴う4つの寺院仏堂の複合体は、平泉の財力を反映する類い希なる集合体です。

17) 富士山-信仰の対象と芸術の源泉 (2013年6月)

【日本の先輩世界遺産マップ】

